

都道府県名	埼玉県	授与年度	平成 15 年度
学校種	高等学校	担当する教科等	英語
教授内容	オーラルコミュニケーション(英会話)、ライティング		
教諭の前職等	英会話学校講師	年齢	30 歳
内 容	<p>対象学年 1～3年 授業時間数(週コマ数) 14時間</p> <p>1. 授与・採用経緯等</p> <p>本校は海外現地校出身者を受け入れており、また、英語で授業を行う大学への進学希望者が増加する中で、高いレベルの英語コミュニケーション教育が要求される。そのため、非常勤講師ではなく、責任を持って教育活動に当たれるネイティブスピーカーの専任教員を必要としていた。</p> <p>来日7年を数え、これまで、英会話学校や公立中学校において社会人、高校生、中学生、小学生を対象に英会話を教え、相手の能力に応じて適切にコミュニケーション技術を指導する高い力を持ち、一方で高い日本語能力を有してきめの細かい指導ができること、さらに温かな人柄、日本文化への理解、高い向上心を有することなどが授与申請、採用に当たった重要な要点となった。</p> <p>2. 具体的教授内容・活動実績</p> <p>1学年6クラス、2学年2クラスのオーラルコミュニケーション(英会話)、3学年3クラスのライティングを担当する。英国出身ということで、英国流の表現を中心に指導しているが、単にテキストのなぞりではなく、英国の社会、文化などを積極的に紹介しながら授業を展開している。</p> <p>母国語なら無意識に使っている表現を生徒が理解できない場合に、相手が納得するまで丁寧に説明し、また、夜遅くまで学校に残り授業の準備をするなど、教育に対する真摯な態度が伺える。</p> <p>世界の中・高・大学生が集まり英語で行うスピーチコンテストである WORLD YOUTH MEETING(愛知県で開催)や APEC YOUTH SCIENCE FESTIVAL(中国・北京で開催)などの世界大会に参加する本学生徒のスピーチ指導を積極的に行い、APEC YOUTH SCIENCE FESTIVAL に参加した本学の生徒2名を優勝、準優勝に導くなど、大きな実績をあげている。</p> <p>3. 効果・課題</p> <p>授業とは別に生徒の部活動においてもESSの指導はもとより、バドミントン部の顧問として生徒を引率して試合に出かけるなど、学校の諸活動に積極的に参加している。生徒と接触することをいとわず、親しみやすい性格は本学の教育にとっては一種の活性化剤的な役割となっている。</p> <p>4. その他</p> <p>将来的には、クラス担任なども受け持っていただくことを考えている。</p>		

都道府県名	埼玉県	授与年度	平成 15 年度
学校種	中学校・高等学校	担当する教科等	英語
教授内容	リーディング、英会話		
教諭の前職等	財団法人通訳	年齢	46 歳
内 容	<p>対象学年 高等学校1・2年 授業時間数（週コマ数） 19時間</p>		
	<p>1. 授与・採用経緯等 大学卒業後20年間にわたり通訳として勤務。その経験から本学の英語教諭に最適と考え、採用することとした。 新聞の広告により広く教員を募集 → 本人が本学に応募 → 本学による採用試験（筆記・英語及び日本語による面接） → 第2次面接（校長・理事長による） → 模擬授業の実施 → 採用（教諭） → 特別免許状の申請</p> <p>2. 具体的教授内容・活動実績 ○ 高等学校1学年（主に英会話） … 英語を1つの道具として日常的に利用する（主に自主プリント）。英語を母国語とする教員とチームを組んで授業に当たっている。自らが通訳としての訓練を受けた時に有効であった、シャドウイングの技法などを取り入れながら英語に抵抗なく取り組めるように工夫している。 ○ 高等学校2学年（主にリーディング） … 英文を正しくかつ心情豊かに読む（主に教科書）。文法的に正しい英語を使用できることは言うまでもなく、英文の背後にある作者・筆者の心情に配慮しながら授業を展開するように心がけている。</p> <p>3. 効果・課題 生徒に対しては、いわゆる教員では得ることのできない経験談などを交えた授業で意欲の向上が見受けられる。 校務分掌としては国際教育を担当し、イギリスへの語学研修への企画・実施を行っている。</p> <p>4. その他 (1) 初年度より高等学校2年の担任である。 (2) 今年度は高等学校のみで教授しているが、本校は中・高一貫校であるため、今後中学校でも教授することを考え、中学校・高等学校で特別免許状を申請した。</p>		

都道府県名	京都府	授与年度	平成 16 年度
学校種	高等学校	担当する教科等	英語
教授内容	学校設定科目「ECC」「EWC」「エンタープライズⅢ」		
教諭の前職等	京都市教育委員会AL	年齢	42 歳
内 容	<p>対象学年 : 1 年生, 2 年生 授業時間数: 前期: 週 16 時間, 後期: 週 18 時間, 通年: 週 17 時間</p> <p>1. 授与・採用経緯等 昭和 59 年度から外国人指導員及び京都市立教育センター指導員等として, 生徒に対する英語指導のほか英語指導方法の研究など本市の英語教育の発展に尽力してきた。平成 14 年度には, 京都市立高等学校の新学科開設に伴う創造的コミュニケーション能力分野のカリキュラム作成及び教材研究を担い, 平成 15 年度は臨時免許状の活用により常勤講師として勤務した。 平成 16 年度 4 月からは, 京都府初の特別免許状の授与を受け, 京都市立高等学校教諭(外国籍のため「任用の期限を付さない常勤講師」)として勤務している。</p> <p>2. 具体的教授内容・活動実績 エンタープライズシップ(リーダーシップやチャレンジ精神)旺盛な, また学識経験豊かな進取的・独創的な人材の育成を目指す新学科における学校設定科目「ECC」「EWC」等を担当している。 「ECC(イングリッシュ・コミュニケーション・コンペテンシー)」の講座では, 生徒が英語によるディベートができるまで“英語で考え英語で表現できるようにすること”を指導目標として, 実用的な英会話を指導している。 また, 「EWC(イングリッシュ・ライティング・コンペテンシー)」の講座においては, 単に文法上正確な英語の文章を作ることにとどまらず, ネイティブスピーカーの観点から生きた英語の文章表現に重点をおき, 指導をしている。 これらの講座では, 独自テキスト作成も担当している。</p> <p>3. 効果・課題 新学科の教育目標のひとつである「創造的コミュニケーション能力の開発」といった教育理念達成に主導的に貢献する第一人者である。 本教諭の指導により, シンガポールや中国等の海外の学校との交流における生徒たちのコミュニケーションの実践においても, 大変有意義な成果があがっている。 また, リスニング能力についても, 各種模擬試験や実力テストの結果をみれば, 格段に向上している。</p> <p>4. その他 現任校におけるALTとしての勤務歴も約 20 年に及ぶため学校事情に精通しており, 正規教員として一層責任ある立場となったことで, 将来的に学級担任を持つことを目標に, 生徒指導や進路指導に一層の研鑽をつんでいる。</p>		